

週日の説教

金 大烈 神父 2011年7月21日(木)

《知っている世界が全てではない ～見よう、聞こう、理解しよう、認めよう～》

先週の主日のミサの説教で『人生は宿題』と申しあげましたね。

今日の福音(マタイ 13・10 - 17)は、イエス様のもどかしい心がしっかりと表現されている箇所です。このような言葉が最初のほうに出ています。「持っている人は更に与えられて豊かになるが、持っていない人は持っているものまで取り上げられる。」

一つのことがこの世の全てだと思う人がいます。そして二つのことが全てだと思う人がいます。そして、この世の中には二つだけでなく三つ、四つ、それ以上たくさんのことがあるのを分かっている人もいます。一つのこと全てだと思っている人は、二つのことが全てだと思っている人から「この世には二つのことがある」と言われてもそれを全く理解できません。そして、この世には二つのことがあると思っている人が、「それ以上たくさんのことがある」と言われても、なかなか聞こうとしないのが世の中の常でしょう。

なぜ私が『人生は宿題』と申し上げたか簡単に説明します。

私たちは、いろいろなことを聞きながら生きています。今日イエス様がおっしゃった「聞くには聞くが、決して理解せず、見るには見るが、決して認めない。心は鈍り、耳は遠くなり、目は閉じてしまった。」そのような姿にならないように、私たちはいつも宿題のように意識していなくてはなりません。

今日、一人の子どもが洗礼を受けます。この子に与えられている人生の鍵は、この子が持つことになります。自分に与えられる『人生の宿題』を意識して過ごすかどうかによって、この子に開かれる世界は全然違ってくると思います。

宿題をするために、何が一番必要なことでしょうか。それは、『知ろうとする心』です。知らなければ、どのように問題が解決するか全然分かりません。一つ目が分かれば、二つ目に進めます。二つ目が分かれば三つ目まで行けます。しかし「一つしかない」と思ってしまうと、この宿題は、完成されないまま終わってしまいます。

イエス様は、いろいろな説教を通して、いろいろな体験を通して、ご自分のみ旨を私たちに教えてくださいました。それを成し遂げるべき宿題と考えて、どのくらい頑張ってきたでしょうか。それをいつも意識しなければなりません。

私たちの人生は宿題です。その宿題をどのくらいきれいに、しっかり準備して、解決してきたか、が問題です。「あなたがくださったこの宿題をこのように解決しました。」という返事ができれば、その人の人生は最高でしょう。

自分の知っている世界が全てだと絶対に思わないでください。いつも心に場所を開けておいてくだ

さい。そうでなければ、私たちは絶対に進歩しません。「この宿題の一つを解決したら、次の二つ目まで挑戦する力が得られる」そういう気持ちで一つ一つ自分の人生に取り組んで行きましょう。それしか人生の意味を探す方法はないと私は思います。

今日の最後のイザヤの預言では、本当に怖い話が預言されています。「わたしは彼らをいやさない。」つまり、「神様がいくら頑張っても、聞こうとしない人、見ようとする人、理解しようとする人、認めようとする人たちを癒すことはできない」という話になるのだと思います。

もし私たちに、み目に耳を傾けようとする姿が足りなかったら、今日の福音を通してもう一回頑張りましょう。もし分かれば、もっと分かるようになり、神さまにいただいたものを認められれば、もっと素晴らしいものをいただけるようになることをいつも意識しましょう。

皆様はたくさん知っていらっしゃるのですから、もっと豊かなそれ以上の恵みが与えられると思います。

ありがとうございました。